

- ⑦ 荒神社
都窪郡早島町早島 825-2、824-3
- ⑧ 船越神社
都窪郡早島町早島 215-5
- ⑨ 荒神社
都窪郡早島町早島 127
- ⑩ 荒神社
都窪郡早島町早島 1137
- ⑪ 荒神社
都窪郡早島町早島 1254
- ⑫ 荒神社
都窪郡早島町早島 1393
- ⑬ 天満宮
都窪郡早島町早島 1815
- ⑭ 荒神社
都窪郡早島町前潟 164
- ⑮ 巖島神社
都窪郡早島町早島 2329
- ⑯ 河内神社
倉敷市早高 669
- ⑰ 荒神社
倉敷市西田 210
- ⑱ 大藏神社
倉敷市五日市 392

- ① 若宮神社
都窪郡早島町若宮 22-2
- ② 巨神社
都窪郡早島町若宮 25-10、25-11
- ③ 鹿野四郎神社
都窪郡早島町早島 611-3
- ④ 大藏神社
都窪郡早島町早島 628
- ⑤ 荒神社
都窪郡早島町早島 682
- ⑥ 稲荷神社
都窪郡早島町早島 544

本社の境内に祀られる神社を境内神社（古くは摂社及び末社と呼ばれた。）境外に祀られる神社を飛び地境内神社という。

飛び地境内神社

飛び地境内神社位置図



神厩

神厩は神社に奉納された神馬を飼うための施設である。

奈良時代から祈願のために馬を奉納する習慣があるが、実際に奉納するとなると、施設や世話が必要となり、また高価である事などから、等身大の馬の像や、板に馬を描いた絵馬などに置き換わっていった。

当社の神厩は、都窪郡誌によると、天保三年（1832）に改築若しくは建築とあり、中に安置されている木製の神馬も同年代の作と思われる。その後、昭和三十八年屋根葺き替えを行っている。

（国民道徳協会訳文による）

このような国民の歩むべき道は、祖先の教訓として、私達子孫の守らなければならぬところであると共に、このおしえは、昔も今も変わらぬ正しい道であり、また日本ばかりでなく、外国へ行っても、またいのない道でありますから、私もまた国民の皆さんとともに、父祖の教えを胸に抱いて、立派な日本人となるように、心から念願するものであります。

地神様

当社の地神様は石碑形式で、正面に五柱地大



木製の神馬



神馬を安置する神厩

延喜式に、雨を願うときには黒毛の馬を、晴れを願うときには白毛馬をそれぞれ献納するという記述があり、当社の神馬は白馬であることから、晴れを願って奉納されたものであろう。また、一般的に神馬の像はブロンズ製や石製の物が多く、当社のように木製で彩色を施され、丁寧に神厩へ安置されている物は珍しい。



農耕神を祀る地神様の石碑

神と刻まれている。
祭神は、天照大御神、大己貴神、少彦名神、倉稲魂神、埴安神の五柱で、太陽・土地・穀物・土といった何れも農耕に関係する神々を祀っている。
祭典は、社日祭といわれ、春分と秋分に最も近い戊の日（前後同日数の場合には、前の戊）に宮崎地区の氏子にて行われている。
春の社日を春社、秋の社日を秋社といい、「社」は、生まれた土地の守護神である産土神を指す。一般的な社日祭は当日産土神に参拝し、春は五穀の種を供えて豊作を祈り、秋は収穫の感謝の祭りを行う。この日は、農業に従事する人々の休養日とされ、朝から社日祭を行い、地神様の前で一日宴が催され、農具に触れてはならないとされていた。
神社の境内や路傍に、「地神」と刻まれた石碑や五角柱の石柱があるが、これらは皆地神様である。